

校長室だより(No.36)

令和3年12月15日
丹波市立黒井小学校長
谷口 千尋

情報モラル教育



私が小学校1年生の時に大阪で万国博覧会が開催されました。すべてのものに驚いてばかりだったので、その中にワイヤレステレホン「未来の電話」というものがありました。黒くてダイヤルを回す電話しか知らなかった私は、線のない電話に驚きました。それから約15年後、また線のない電話に出会いました。「シヨルダーフォン」です。散髪屋で隣に座った人が、散髪をしながら電話をかけているのです。驚きました。聞くと自動車の販売をされている方でした。

現在、家庭に1台だった電話は、1人1台となりました。万国博覧会で見た未来を追い越してしまいました。スマートフォンは、電話ばかりかメール、ビデオ、オンライン会議にも対応します。インターネットで世界中とつながることも可能です。黒電話(ダイヤル式)から比べたら本当に夢のような話です。

このように、情報化社会は日々進化しており、5Gなど次々と新しいものができてきます。その流れは後戻りできない状況となっています。子どもたちは、これからこの情報社会の中で生きていくこととなります。そういう観点からも、小学校の時期の「情報モラル教育」は、重要です。また、急務です。タブレットPCの活用などですすめている「情報活用能力」と共に身につけさせたいところです。

スマートフォンやタブレットPC等は、一つのツールとしては非常に便利です。現在の私たちの生活から切り離す事ができないものとなりました。しかし、使い方によっては、非常に危険なツールとなることもあり、特に小中学生が巻き込まれる事件も多く、ネット上のいじめ等、学校としましては把握できるように努めているところですが、表面化しないトラブルは多くあるものと考えています。6年生にもなりますと自分のスマートフォンを利用している児童もいます。既にこのツールを利用している児童への「情報モラル教育」はもちろん必要ですが、これから新たに利用していく初期の段階の子どもたちに対しても、情報化社会の光の部分(利便性等)と共にその影の部分(危険性等)を学ばせたいところです。

本日、NTTドコモ様の協力もあり、4年生、5年生、6年生で「情報モラル教室」を実施しました。5年生、6年生につきましては、10月にも黒井小学校PTAの協力で情報モラルにかかるワークショップを経験しています。今日は、オンラインでの学習となりましたがわかったことを熱心に記録していました。

子どもたちの遊びの中にもオンラインゲームが入ってきており利用の低年齢化が加速度的に進んでいます。トラブルに関する具体的な事例を共有し、それに伴うルールや必ず守るべき項目を明確に理解させる必要があると考えます。

この取組は学校のみならず、社会や家庭を巻き込み、特に家庭において、危険情報の共有化や子どもたちへの教育(情報モラルを含む道徳教育)を進めていかなければならないと感じています。